

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

考えるときにはたらいっているのは、脳の前頭葉です。

脳の中には自分のもっているいろいろな記憶があります。体験した出来事のエピソード記憶も、知識にあたる意味記憶も、技能にかかわる手続き記憶もあります。ある状況になったとき、それらの記憶で必要なものを、一度前頭葉の前頭連合野にもつてくると同時に、見えるもの、聞こえるもの、ふれるものという現実の感覚情報をもつてくる。そして、この場合どうしたらいいかという選択をする。そういうことを「thinking」(考える)ということです。

自分がすでもっている記憶情報と外から入ってくる感覚情報と同じ場にもつてくる、その必要に応じて集めてきた情報、あるいはその情報を処理する場を「①ワーキングメモリー」と呼んでいます。

このワーキングメモリーが、「考える」ときの中心的な役割をはたしています。そこで何がなされているかという点、感覚情報として入ってくる現実世界のいろいろな情報に対して、自分はどうかはたらきかけるのが最良か、黙って見過ごすのか、それを②ツカまえるのか、あるいは逃げるのかという行動選択をしているのです。

そのときに必要な情報のうちで、とくに、過去に似たようなものに関して失敗した事実、マイナスの記憶はとても大事です。たとえば、あるものを見たとき、それに③サワって痛い思いをしたり、それに刺されて痛い思いをしたなら、すぐに逃げる。逆に、食べたらいしかったという経験があれば、ツカまえて食べるという行動をします。

これについて、名古屋大学の心理学者・齋藤洋典先生がおこなった、おもしろい研究があります。

齋藤先生は、大学生たちに自分の思い出せるかぎりの、一〇歳ごろまでの記憶を全部書き出してもらい、よい記憶には○、④不愉快な記憶には×、どちらでもない記憶には△、をそれぞれつけてもらいました。すると結果は、○△×の割合が六対一対三に

なったのです。つまり、いやな記憶が全体の三割ぐらいを占めていたのです。

そんないやな記憶をなぜもちつづけているのかというと、先の「感情の荷札」がついているからということもありますが、もう一つ、行動選択をするときに⑤大きな役割をはたすからだと思います。ワーキングメモリーで行動選択をしようとするとき、まず×の記憶が出てきたものはすべて選択しない。すると選択すべき範囲が⑥狹まり、早く選択できることになります。選択肢全部について一つ一つ、するか、しないかを判断していたら、時間が大変かかってしまいます。だから、ともかく×はやらないとすれば、選択肢が減ります。そのために失敗の記憶はひじょうに大事なのです。

「失敗は成功の母」といいます。それは、昔から人間の行動としてよくわかっていることです。前頭連合野がワーキングメモリーのはたらきをはじめたときに、まずマイナスのエピソード記憶につながる選択は全部キャンセルしてしまう。残ったものだけで、どうするかを判断しているのだらうと思います。つまり、マイナスのものは捨て去って、残ったものの中からいちばん有利だと考えられるものを選択する。それが「考える」ときの一つの重要なはたらきです。

そこまでは判断で、そこで行動を起こしてみると、成功か失敗か、結果が出てきます。たとえば、おいしいものだと思って口に入れてみたら、苦くて食べられない。ペッペッと吐き出したとします。すると、そのことが新しい除外⑦コウモクとして、エピソード記憶の中に入ってきて、二度とそういうものに手を出さないようになります。

このように、未来は、過去を基準にして、自分の判断で選び取るものです。社会で起こっている現在の情報をたくさん手に入ると同時に、自分が経験した過去の情報や知識をすべて考えあわせて、いま自分がどういう行動をとるかを判断しなければいけない。その全部のものを考えあわせて判断する場が、前頭連合野でおこなわれるワーキングメモリーです。それが前頭連合野のいちばん大きなはたらきです。

ワーキングメモリーを上手に使う方法を手につけることはとても大切だ、と私は考えています。目の前の情報だけにとらわれず

に、自分のもっている知識、たとえば本などで調べてみたり、いろいろな人の経験、自分の経験、あるいはおじいちゃんおばあちゃんとの経験を聞いてもいいです。そういう経験をもとにするとか、そうやってたくさんさんの情報を使って判断しなさいと教えるのが、教育の一つの大きな目的だと思います。

インターネットの断片的な情報や、本を一冊読んだだけで全部を判断していたら、ものすごく偏った行動になってしまうでしょう。そういったことを、教育の場では教えなければいけません。だから、⑧ワーキングメモリーは未来のためにあるのです。

ワーキングメモリーをどうやったら上手に使えるか、それを教わるのが、学校です。中学の時代はそこまでいかないかもしれませんが、高校ではそれを教えるはじめなければなりません。大学教育は、まさにワーキングメモリーの使い方を教えるところだと思います。

⑨、医学部の教育は、六年間のうちの後半の三年はすべて実習です。目の前に患者さんがいるのですから、それは現実情報です。そして患者さんの症状にどう対処するか、判断するときに役立つのは、教室で聞いた知識です。まわりにいるお医者さんから「こういう症状のときは、この病気だった」という話を聞くことで、自分の脳に知識として蓄積されていきます。それを少しずつ積み重ねていくと、ワーキングメモリーにもち出せる知識記憶も多くなり、判断材料が増えてくるわけです。そういうふうにして、⑩ことが実習の役割であり、大学教育の目的です。

先にもお話ししましたが、失敗の経験は、つぎの判断のときにそれをしないために必要なのです。だからエピソード記憶の中には、自分が失敗した記憶がたくさん詰まっているわけです。

残りにくいエピソード記憶は、どうでもいい内容です。ほめられも叱られもなかったことは残りにくい。それは、つぎの判断に何の意味もないからです。やっただけにほめられることもないし、とがめられることもないことは、やってもやらなくてもいいことです。だから⑪そういうものはあまり記憶には残りません。

人が興味をもって、「それはいいね」と言ってくれば、もっとやろうということになります。逆もあります。「こんなダメじゃないか」と言われると、こんどは別の方法をとってみようと考えます。⑫、プラスかマイナスの評価が強力につくものが学習になるので、どちらでもいいことは学習にならないのです。

叱られるのが恐くて、あるいは失敗するのが恐くて、いろいろな場面で積極的な行動がとれないという人も多いでしょう。でも叱られたこと、失敗したことこそ、強いエピソード記憶になるのです。ですから、自分で「これをやってみよう」「こうするのが正しい」と考えたら、とにかくやってみることで。そして、叱られたり、失敗したりしたら、「こういう行動をとったから叱られたんだ」「こんな判断をしたから失敗したんだ」と、しっかり記憶すればいいのです。きちんとした理由があつて叱られたことは、むしろ感謝すべきなのです。

『上手な脳の使いかた』岩田誠

問一 傍線部①「ワーキングメモリー」とありますが、それについて説明した次の文の空欄A～Dに当てはまる最も適当な言葉をそれぞれ指定した文字数で文中から抜き出さない。(句読点は字数に入れません。)

それぞれの状況に応じて適切な行動選択をするために自分の持っている記憶情報のうち、A (七字)、B (四字)、C (五字)と、現実のD (四字)を同じ場にもってくる。その必要に応じて集めてきた情報、あるいはその情報を処理する場のことをワーキングメモリーという。

問二 傍線部②・③・④・⑥・⑦の片仮名を漢字に、漢字を平仮名に直しなさい。

問三 傍線部⑤「大きな役割をはたす」とありますが、「いやな記憶」がはたす「大きな役割」とはどのようなものですか。解答欄に合わせて二十五字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問四 傍線部⑧「ワーキングメモリーは未来のためにあるのです」とありますが、未来において適切な判断をするためにはどのようにすることが必要ですか。最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ワーキングメモリーで素早く判断できるように自分が必要だと思う最低限の情報のみを集めること。

イ 目の前の情報について徹底的に追求し、一冊の本を何度も読み返し分らないところをなくすこと。

ウ インターネットには誤った情報が多く存在するため、インターネットの情報は信じないこと。

エ 本で調べたり、人から話を聞いたりして、そこから知識や経験談などの情報を集めること。

オ インターネットや本よりも自分の身近な人の経験談などから生きた情報を手に入れること。

問五 空欄部⑨・⑫に当てはまる言葉を次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ たとえば ウ つまり エ ところで オ そして

問六 空欄部⑩に当てはまる言葉として最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 失敗の記憶をより多く積み重ねる イ 自分のワーキングメモリーの範囲を広げていく

ウ 一人でも多くの人に接する エ どんな状況でも冷静に対処できるようになる

オ 手続き記憶を強化する

問七 傍線部⑪「そういうもの」とありますが、それはどのようなものですか。文中から十六字で抜き出しなさい。

(句読点は字数に入れません。)

問八 筆者は失敗の経験はワーキングメモリーでどのようにはたらくと考えていますか。「ワーキングメモリー」、「行動」、「判断」、

「エピソード記憶」という言葉を使って、七十字以内で書きなさい。なお指定された語句には線を引くこと。

(句読点は字数に入れません。)

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（本文の表記の一部を変えています。）

日本文学全集から世界文学全集。世界各国の資料や天文学や科学の資料。新しい読み物だったたくさんある。図書費用は年間何十万と入るから、図書室はとても充実している。だけど、本を読む①クセが昔から付いていないせいか、ぎっしり詰まっている図書室の本にも私はちつともそそれなかつた。

窓の外を眺めると、空は昨日と同じように灰色だった。この辺は、雨が多い。②ツユになると、本当に何日も太陽が見られなくなってしまう。太陽の光がないと、海も山も厳しく険しく見える。海はどんよりとした空の下で、暗い色のままでうなっていた。

垣内君は私の存在が見えないのか、まるで気にもせず作業をしている。するべきこともなく、二時間近い時間をこの空間で過ごすのは拷問に近い。小さい頃から、時間をつぶすのは苦手だった。するべきことや目的がないと、どうしてもいいかわからなくなつた。休みの日でも朝からきちんと予定が入っていないと、落ち着かなかつた。

「ねえ」

私は図書室の中をうろつくのをやめて、垣内君の前に座つた。

「なんですか？」

垣内君が顔を上げた。

「③退屈なんだけど」

「そう言われても困りますが」

「④刺激がほしいのよね」

「刺激？」

「そう。なんか文芸部の活動って、波がないというか、毎日⑤ダンタンとしていて盛り上がりませんでしょ」

「そうですか？ 僕にはかなり刺激的ですけど」

「どこに？ いったい顧問に⑥ナイシヨで何をしてるのよ」

「例えば、昨日は三島由紀夫がボディビルをしていたと知りました。愉快でしょ。知らなかったことを知るのなんともショッキングです」

私には三島由紀夫がボディビルをしようが、⑦アミノモノ教室に通おうがどうでもよかった。

「なるほどねえ。でもさあ、例えばバレエ部とかだと、目指すものがあるでしょ？ 県大会とか。毎日ちゃんと張り合いがある。別に文芸部が悪いつてわけじゃなくて、手芸部にしても美術部にしても、文系クラブって毎日同じようにだらだら過ごしているだけっていうか、メリハリがないのよねえ」

「毎日筋トレして、走り込んで、パスして、後は、レシーブ練習サーブ練習などなど。バレエ部のほうが、毎日同じことの繰り返しじゃないですか。文芸部は何一つ同じことをしていない。⑧僕は毎日違う言葉をはぐくんでいる」

垣内君はきっぱりと言った。垣内君のいつもと違うはつきりとした口調のせいかな、私は少しどきどきとした。

「なんか今のかっこよかった。青春ぽかった。もう一回言つて。僕は毎日違うなんたらつてところ」

「嫌です」

「毎日違う言葉をはぐくんでいる。っていいね。いい」

「繰り返し返さなくてけっこうです」

垣内君が怒った。

「でも、もっとわかりやすいメリハリがほしいのよねー。これぞ部活って雰囲気なさあ。部長なんだから対策練らないと、部員が減るよ」

「部員ってどこにいるんですか」

「私」

「先生は顧問でしょう」

「どっちでも一緒じゃない。顧問だったとしても、これ以上つまらないって思ったら、家出するわよ」

⑨私の無茶な言い分に、部長はしばらく考え込んで口を開いた。

「わかりました。会議をしましょう」

「会議？」

「そうです。去年までは部員が何人かいたので、みんなでいろいろ討論や相談みたいなことをしていたんです。一つテーマを決めて、自分達の考えを出し合って深めていくみたいな感じで。いまいち文学に関係ない気がしたし、僕は苦手だったけど。だけど、部員が二人だからってそれを省くのはまずいですよね。だいたい、先生が退屈なのは文芸部に参加していないって思うからでしょう。毎回活動を始める前に会議をしましょう。どうですか？」

つまらない原因は文学に興味がないからだけど、確かに参加している感覚がないから退屈なのかもしれない。私だって会議は大嫌いだけど、高校生と二人でする会議なら、そんなに面倒なことはないだろう。私は了承した。

「じゃあ、早速文学会議を始めましょう。早川先生、何か議案はないですか？」

垣内君は改まった顔をして会議を始めた。

「議案って？」

「何か話したいことはないですか？」

「よし、じゃあ、文学的なテーマで。えっと、正義とはなにか。どう？」

私は自分が知っている単語の中でなんとなく文学っぽい言葉を選んでみた。

垣内君は⑩うさん臭そうに私の顔を見つめた。

「そう、⑪正義とは何なのか。いいテーマでしょ？」

昔、私はこの手の言葉が好きだった。正義だとか真実だとか。そして、たぶんバレーに夢中だった頃の私は、自分なりの方法で正義や真実を貫いていた。

「どうやって語ればいいんでしょうか」

垣内君が訊いた。

「どんな時に正義を感じるかとか、自分の思う正義とは何かとか」

「じゃあ、先生の正義は何ですか」

「えっと、私はね……」

私は意気込んで、すぐにくじけてしまった。最近の私には、どこにも正義はなかった。やりたくもない仕事をいい加減にこなしている。だらしのない恋愛におざなりに埋もれている。嘘をついているわけではないが、自分も他人もうまい具合に騙しながら、適当に毎日を過ごしている。ただそれだけ。正義のかけらもない。

「私はだめだわ」

私は自分の中のわずかな正義をもってして、正直に告白した。

「仕事はなんかぼやけているし、日常だって今ひとつぐだぐだしているし。正義とは縁遠いな」

「別に仕事や日常を懸命に送ることが正義じゃないでしょう」

垣内君が感想を述べた。

「ふうん。じゃあ、垣内君の正義は？」

「さあ。わかりません。正義とか真実とかそういう類のものは、語りようがないから。ただそこにあるものでしょう」

「何それ。そのありがちな言い訳は。部長なんだから、何か言わなきゃだめよ」

垣内君は私に責められ、困ったように少し笑って言った。

「正義かどうかはわかりませんが、^⑩『黙るべき時を知る人は、同時に言うべき時を知っている』という言葉、ある時書物で見つけました。その時僕はなんだかとても疲れていて、この言葉に衝撃を受けてしまいました。そうだったのかって思い知りました。今は僕はこれを正義ということにいたします」

垣内君はそう言うと、黙るべき時に突入し、川端康成の世界に戻って行ってしまった。

「黙るべき時を知る人は言うべき時を知る」

私は黙るべき時を、言うべき時を知っているのだろうか。

『図書館の神様』瀬尾まいこ

問一 傍線部①・②・⑤・⑥・⑦の片仮名を漢字に直しなさい。

問二 傍線部③「退屈なだけど」について、次の問いに答えなさい。

(1) なぜ「私」は「退屈」だと思ったのかを、解答欄に合うように文中から二十九字で抜き出しなさい。

(句読点は字数に入れません。)

(2) 「垣内君」の指摘から、「私」は「退屈」な理由をどのように考えるようになりましたか。解答欄に合うように文中から十一字で抜き出しなさい。(句読点は字数に入れません。)

問三 傍線部④「刺激」とありますが、「私」と「垣内君」の考える「刺激」について、「私」は二十字以内で、「垣内君」は十五字以内で説明しなさい。(句読点は字数に入れません。)

問四 傍線部⑧「僕は毎日違う言葉をはぐくんている」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の知っている言葉と図書館の本の言葉を比べて、より意味のある言葉を多くの人達に伝えていこうとすること。

イ 図書館の本の言葉よりも日常の言葉に目を向けて、間違った使い方がされている言葉を正していこうとすること。

ウ 図書館の本を参考に新しい言葉を自分で考えて、いつの時代にでも使われる言葉の数を増やしていこうとすること。

エ 図書館の本から様々な言葉を自分で学んで、その言葉を日常生活の中で使いながら生かしていこうとすること。

オ 自分の言葉を図書館の本の言葉に置き換える作業を通して、言葉の重みを実感しながら生きようとする事。

問五 傍線部⑨ 「私の無茶な言い分」とありますが、どのような内容ですか。文中の言葉を使って四十字以内で説明しなさい。

(句読点は字数に入れません。)

問六 傍線部⑩ 「うさん臭そうに」とありますが、「うさん臭い」の意味を答えなさい。

問七 傍線部⑪ 「正義とは何なのか」とありますが、「私」の考える「正義」について、十五字以内で抜き出しなさい。

(句読点は字数に入れません。)

問八 傍線部⑫ 『黙るべき時を知る人は、同時に言うべき時を知っている』という言葉」とありますが、「垣内君」はこの言葉を

どのようにとらえたと考えられますか。解答欄に合うように書きなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

(だけ)

「この安養の尼上のもとに、強盗、乱入し、注房中にありける物を皆、捜しとり出だしをはんぬ。尼上、紙衾かみふすまばかりを着られけり。

小尼公こあまぎみ(安養尼にしたがふ尼なり。)、走りまはりて見ければ、かれ色の小袖を一つ落したりけるを取りて、『これを落として候ら

(お召しください)

(持ち主)

ひける。たてまつれ』とて持ち来たりければ、尼上、云はく、『①それも奪ひ取りて後は、我が物とこそ思ふらむに、主ぬしの心行かざらむ物をば、②いかでか着るべきや。遠く行かざる以前に早く返し給ふべし』としかじか。よりて小尼公、門を走り出でて、『やや』

と③よびかへして、『④これを落とさしめ給ひたれば、たてまつらむ』と云ひければ、強盗等、立ち帰りにて、暫しばらく案じて、『悪あしく参り候らひにけり』とて、⑤取る所の物等、しかしながら返し置きて退散す』としかじか。

『古事談』

注 房中・・・部屋の中。

問一 傍線部①「それ」とは何を指すか。文中から抜き出さない。

問二 傍線部②「いかでか着るべきや」とは「どうして私が着られましようか」という意味ですが、そう言ったのはなぜですか。三十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問三 傍線部③「よびかへして」とありますが、誰を呼び返したのですか。文中から抜き出さない。

問四 傍線部④「これを落とさしめ給ひたれば、たてまつらむ」の意味について、最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア これを落としておられるのならば、返してください。

イ これを落としておられますので、頂きましょう。

ウ これを落としておられますので、さし上げましょう。

エ これを落としておられるのならば、どうしましょうか。

問五 傍線部⑤「取る所の物等、しかしながら返し置きて退散す」とありますが、そのようにしたのはなぜですか。三十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)